

2月14日 遼



西郷隆盛と言えは、敬天愛人、薩長同盟締結、江戸無血開城、廃藩置県の断行、そして何と云っても、日本最後の内戦と言われる西南戦争を戦い抜き、最後はここ城山で自刃、自らの生涯に自ら終止符を打った幕末・維新期の偉人ということでしょうか。その最後の旅路となった西南戦争で、熊本を目指し、鹿児島を出発したのが今月2月の中旬。ちょうど今頃。この時の鹿児島は、50年ぶりの大雪だったそうです。

そして今、この西南戦争に絡めて、逍遙館長さんが珍しく真剣にワタシに話してくれたこと。それは、西南戦争の西郷を擁護した福澤諭吉の「精神的な文明観」。それともう一つは、「本当の優しさって、本当に強くなければできないよね」ということ。本当の意味での「文明」って、西郷さんの言う「敬天愛人」のような、国境や時代を超えた、「普遍性」と「寛容さ」があるべきで、そこには、本当に強い者だけが持ち得る「優しさ」が漂っているんじゃないかな、ということでした。

次回「西郷銅像の視線の先には?、のこころ」

真の「文明」と「優しさ」、

のこころ

